



# 林ゼミ 小池明日香、北川樹、西脇里緒

## 「JIUの学生がSDGsのために何ができるか～世界のジブンゴト」

### SDGs日本語教育の～留学生のための日本語教育～

#### 1. はじめに

SDGsの17つの目標を達成するために何ができるのか考えた際、本活動の中心となる学生は副専攻である日本語教育過程を履修しており、特に日本語教育に特化し活動を進めていきたいと考えた。また、SDGsのゴール4は「質の高い教育をみんなに」であり、新型コロナウイルス影響の中で留学生の日本語支援を行いワークショップやインタビューを通して意見を共有し、様々な考えに触れることで今後の研究に向けた日本語教育に対する知識を深めていきたい。

#### 2. 先行研究

大内(2020)によると、新型コロナウイルスの影響で、留学生や日本語教師に混乱を与えていると述べている。その為、オンラインの授業が望まれるが、オンライン授業をするにあたって、ネットワークへの負担や海外待機者が授業を受けられないなどの問題があるとまとめている。更に、文部科学省の「外国人の陣留学生在籍状況調査」(2019)によると「留学」で滞在している外国人は312,214人(令和元年)で前年の13,234人比べると約4.4%増加していると結果がでている。つまり、多くの留学生が新型コロナウイルスに悩まされながらも、日本語を学びたい留学生は現に日本に滞在している。しかし、そのような現状で日本語に触れられているのだろうかと考えた。そこでチューター制度を設けJIUの留学生と日本人の交流を深め、更に、変化しつつある日本語教育の現状と課題を考察していく。

#### 3. 調査目的、調査内容

日本語教育の現状・課題点などについての先行研究や、実際に日本語教師として働いている先生にインタビューやワークショップを開き、実際の生の声を聴いてそれを基に考察していきたいと考えた。従って、その結果から得られた現状や課題に基づいてJIUの留学生を対象に本研究ではワークショップの内容とインタビューを基に分析していく。



#### 6. おわりに

今回は主に城西国際大学の留学生と日本語教師を中心に調査を進めてきた。しかし、インタビュー調査をオンラインで行ったことにより、オフラインよりも話を広げたり柔軟に対応することができなかったことが反省点として挙げられる。今後は大学以外の留学生との交流も増やして、今回出た意見と比較していきたいと考える。そしてこれらの調査が、今後のSDGs及び日本語教育の発展に活かせることを願う。

#### [参考文献]

大内 泰夫 2020. 『新型コロナウイルスと日本語教育①』 p2 天理教語学院  
文部科学省 独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について

[www.mext.go.jp](http://www.mext.go.jp) (検索日：2021.01.28)

#### 4. 学生へのインタビュー結果と分析・考察

##### 4-1 自国と日本での教え方の違いについて

日本と各国を比べたところ、日本やアメリカでは会話練習が中心なのに対し、中国やベトナムでは講義中心で一方的な授業が多く、どの国も使用している教科書は異なり、必ずしも直接法で教えているのではなく、寧ろ間接法を使っている国が多いという結果となった。

##### 4-2 学習者が求める日本語教育について

日本語能力試験などに向けた入試や資格のための授業と、流行っている言葉や話題などを用いた面白さ重視の授業の二極化が見られた。また、授業のオンライン化が進み、多くの学生が回答した日本人との交流がしたいというニーズは今後さらに高まると考えられる。

##### 4-3 良い日本語教師とは

レベルが違う学生一人一人の目的やゴールを理解しており、それらを達成するために尽くしてくれる先生や、親しみやすく授業外でも就職や進路について相談に乗ってくれる先生という意見が大半だった。留学という不安な環境下で「先生」という存在は、学生にとって大きいということが窺われた。

##### 4-4 好きだった日本語教育

日本の映画やアニメを見てその中に出てきた日本語の表現について学ぶ授業や、日本の文化に触れる授業など、座学中心ではなく、ゲーム感覚で楽しく学べたり実用的でアウトプット中心の授業が好まれていることが明らかになった。

##### 4-5 新型コロナウイルスの影響について

オンライン授業を通して、対面の方が上達できると感じる、学習意欲の喪失、ビデオで話しているだけでつまらない、日本語を話さなくなったなどマイナスな意見が多かった。また、日本人学生とは違って全員が学校に行きたいと回答した。いつ収束するか分からないこの状況で、これらの問題は最も大きな課題であると言える。

#### 5. 先生へのインタビュー結果と分析・考察

##### 5-1 教師の知識技能・資質について

各国に文化的背景があることを意識し学習者に合わせて授業をカスタマイズする。また自分自身も学び、成長することができ、臨機応変に対応すること。

##### 5-2 授業で気をつけていること

クラスの雰囲気作りを大切にし、自然な日本語で話すことを心がけて、宗教的な話はあまりしないこと。

##### 5-3 学生との距離感

学生と一定の距離感を保ち、教師として成績をつける立場のため物をもらうことはせず断る。またタメ口を話す生徒に明確に指摘し、直す。

##### 5-4 クラスの雰囲気を良くするための心がけ

序盤にスモールトークをし和ませ、発言などは学生の力を借り、クラスのムードメーカーにあて、場を盛り上げる。また、最近の話題を取り上げ、学生の話しやすい場を作る。

##### 5-5 学生とのコミュニケーションの取り方

日本語だけではなく学生一人一人の性格も理解する。どんな学生なのかを知り、状況の応じた学生との距離感を大切にする。

##### 5-6 どうやったら分かりやすく授業ができるか

発言の機会を増やし日本の文化に合わせた授業の組み立て、学生の表情を見ながら工夫する。